

# 新型コロナウイルス感染対策と今後の活動について（ささのはクラブの考え方）

2020.5.10

## 【基本方針】

小学校休校中は、春休み期間中と原則的に同等の体制を堅持します。国または自治体から閉室指示または要請が出ない限り、開室を続けます。

感染及び濃厚接触者と認定された場合は、2週間の登室禁止となります。また、児童、指導員等の感染が判明した場合は、感染拡大を防止する為、2週間の閉室を行います。しかし、連絡を受けた者は個人や家族を特定する事項を守秘義務として扱い、漏洩することはありません。

県外及び他の保育施設では、保護者の職業種別によって厳格な登園・登室制限を行っている公的施設もありますが、我々「ささのはクラブ」は、保護者が助け合って運営する民営の自主学童保育です。保育を行う団体として「保護者の就労を確保する」という基本的理念があります。その保護者の職業種別によって登室の可否を判断する事など出来ません。どの職業も社会を構成する重要な一躍を担っており、優先順位などは存在しません。差別される子どもたちに質問される「なぜ？」に明確に答える弁を持ちません。

## 【基本的保育の考え方】

当クラブは設立の趣旨から、保護者の就労を守るとともに、学童保育本来の目的である遊びを通しての自主性、社会性、創造性を培うことや、活動への意欲と態度の形成を促す所です。具体的には、子どもたちの生活と遊びの場であり、安全に対する意識向上や、集団生活での遊ぶ、話す、食べることを通して、成長発達を図るところです。よって、子どもの特性を否定するほどの制限をすることはしていません。ささのはクラブを必要として登室している子どもたちが、日常の生活を制限されないよう工夫しながら、できる限りの対策を行っていきます。

## 【4月からの状況】

非常事態宣言が出された後の周辺事態の深刻さは、ご承知の通りです。ささのはクラブ内においても集団感染の危険は差し迫っているものとして、危機感をもって保育にあたっており、考えられる感染予防策を行っています。しかしながら、学童保育本来の目的や施設面積からすると、感染予防の対策である「密閉・密集・密接」を避けることを集団生活の全てにおいて達成することは不可能であり、感染の危険は必ず付きまといま

す。一人の感染児童から複数名の二次感染児童が出る危険を常に感じています。

以上の事由により「登室については、各ご家庭で判断いただきますようお願いいたします。」としています。このような状況でも臆することなく毅然とした態度で保育にあたっています。現在、新たな感染者の減少傾向により、沈静化の様相を呈し始めておりますが、緊急事態宣言の延長と、小学校休校の延長がなされている現状では、予断を許さない状況であると判断し、以下に示す具体的な感染予防策を継続していきます。

## 【感染予防策について】

- ・生活カードでの健康状態確認  
・登室に当たっては、お子様本人の体温を計測頂き、健康状態を記入いただき発熱（37.5度以上）等が認められた場合には、登室を控えてもらっています。
- ・換気  
・保育時間中は、すべての窓、玄関ドアは開けたままにしています。今後も継続し「密閉」を回避します。空気の循環が多少悪い2階の部屋には空気清浄機を置き換気しています。

- ・手洗い・・・登室時、外遊びからの入室時、昼食前、おやつ前の手洗いを実施し、基本的な感染予防策としての手洗いを徹底しています。さらに手洗い場、台所に加え玄関横、トイレにもアルコール消毒液を設置、消毒の徹底を促します。
- ・手ふきハンカチ・・・手洗い後の手拭きのため、必ず自分の手ふきハンカチを持ってくるよう指導しています。
- ・消毒・・・毎日、昼食後と閉室後、その他適宜指導員が、ドアノブ、手摺り、スイッチ、テーブル、テーブルクロス、蛇口、トイレ周りなど児童が触れる場所を中心に、チェックリストを作ってアルコール消毒しています。今後も継続します。
- ・マスク・・・指導員は常時着用しています。今後も継続します。  
児童も必ずマスクを着用して登室するように指導しています。手に入らない方はご相談ください。
- ・学習/昼食・・・できるだけ距離を取り着席させています。但し全員が2m以上離れて学習/食事することは困難です。今後も同様です。
- ・遊び・・・遊びの時はできるだけ密集密着し過ぎないように、室内では遊びごとに部屋を分けるなど指導しています。また、室内より安全と考える外遊びの時間を多くとっています。但し全員が2m以上離れて一人遊びだけを行うことはできません。今後も同様です。手作りおやつ等の食材を扱う場合には全員にマスクを着けてもらい、WHOの判断に沿って加熱した物のみにしています。

#### 【各活動について】

☆キャンプなど当面の各行事を例年通りの日程・内容で開催することは、感染状況の推移によっては難しいことも予想されます。行事は当日のみのイベントとして行っているわけではなく、毎日の生活の中での積み重ねの成果として捉えています。したがって、日常の取り組みは例年とかわりなく行っています。様々な活動での経験は不安な毎日を肌で感じている子どもたちにとって、毎日の生活に前向きになり、不安から離れて心も体も元気になれる源になっていると考えます。家庭での判断によってお休みしている子ども達は、来られるようになれば同じ経験ができるように取り組みます。また、日常での子ども同士のつながりは、休んでいても持ち続けられるように配慮しています。グループでの相談では、電話をして休んでいる子の意見を聞いたり、こどもが手紙を書いてお便りと一緒に届けたり、外遊びをする時間帯を知らせ、外での交流ができないかなど、情報をお伝えしています。

☆会議・打合せなど、バーチャル化できるものはしていきます。

4月に予定していた、新入生歓迎ハイキングは、こどもの生活グループ単位の親子で、例年地域でのウォークラリーで行う地域を知るゲームをバーチャルで行い、新入生も一緒に楽しむことができました。

#### 【休校中の学習について】

長引く休校で、学校から配られる家庭学習用の教材は復習主体から、未習のものを自習して学ばなければならぬものになってきています。小学生の自習の困難さを考え、今まで週2回来てもらっていた学習ボランティアが毎日来ることになり、学習時間も2コマ(1コマ40分)に増やし、きめ細かく指導できるようにしています。

「この難局をどう切り抜けるか？」みんなで知恵をしばり答えを探し、できる可能性のあるものは前向きに考えていきましょう。

#### 【最後に】

興味深い動画が日本赤十字社より YouTube に出ています。「ウイルスの次にやってくるもの」で検索してみてください。